



contents

[コラム]

情報処理学会と文京区教育委員会との連携
…中山泰一

[解説]

一般情報教育の全国実態調査（2）
…岡部成玄基
般 Column

情報処理学会と文京区教育委員会との連携

本会情報処理教育委員会では、2012年度より、文京区教育委員会と連携した活動を行っている。文京区教育センターでの情報科学教室と、区立小中学校のICTリーダー研修の企画にかかわっている^{☆1}。

筆者は、8年間、文京区の情報公開に関する委員を務めてきた。そのご縁で、教育センターの野稻所長（当時）から、情報科学教室についてご相談いただいた。野稻所長は、パソコンの使い方教室だけでなく、コンピュータとは一体何なのか、コンピュータはどのように動くのか等々、子どもたちが学ぶ場を作りたいと考えておられた。そこで、筑波大学ビジネスサイエンス系の久野先生と相談して、アルゴリズム^{☆2}とViscuit^{☆3}を教える教室を立ち上げることにした。今年度で3年目であるが、教育センターの職員の方々の工夫もあり、親子で一緒に学べる、活発な教室となっている（図-1）。

さらに、区立小中学校のICTリーダー研修についても協力することとなった。文京区では、ICT機器の利活用のために、小学校20校、中学校10校から各校1名の教員がICTリーダーとなっている。年5回のICTリーダー研修では、各校での授業の参観、他区のICT先進校の見学と、ICTリーダーが取り組んだ実践結果の報告を行っている。筆者は、本会コンピュータ教育研究会（CE）や、「会員の力を社会につなげる」研究グループ（SSR）で、高等学校の先生方と連携した活動をして



図-1 情報科学教室でアルゴリズムに取り組む親子

きたが、文京区のICTリーダー研修にかかわることにより小学校の先生方と知り合うことができ、2014年11月には、足立区小学校研究会視聴覚部の研究授業にもお招きいただいた。2013年6月の「世界最先端IT国家創造宣言」の閣議決定では、「初等・中等教育段階からプログラミング、情報セキュリティ等のIT教育」が謳われている。小中学校における情報教育は、本会が取り組むべき重要な課題^{☆4}であり、これからも、小中学校の先生方との連携の機会を増やしていきたいと考えている。

中山泰一（電気通信大学大学院情報理工学研究科）

☆1 文京区教育センター紀要第47号（平成24年度）や、文京区議会平成24年第3回定例会（2012年9月11日）会議録で、本会と文京区教育委員会との連携が紹介されている。

☆2 <http://home.jeita.or.jp/is/highschool/algo/>

☆3 原田康徳、勝沼奈緒実、久野 靖：公立小中学校の課外活動における非専門家によるプログラミング教育、情報処理学会論文誌、Vol.55, No.8, pp.1765-1777 (Aug. 2014).

☆4 早稲田大学の覚先生が、2015年1月の情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」に、小中学校からのプログラミング教育を含めた情報教育推進の流れの中で本会の果たすべき役割について寄稿されている。